



国労せんだい

No. 2682
2014年7月10日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

またも超低額回答

貨物会社 厳しい生活実態

貨物会社は、6月17日、「14年度夏季手当に関する申入れ(国労闘争9号)」に対し、「基準内賃金の1/25ヶ月分、7月7日支払い」の超低額回答を行った。地方本部は、指示58号を発し、貨物会社に対して抗議行動の展開を指示した。

仙台・郡山で夏季手当超低額回答に抗議し再回答を求める集会を開催!

6月19日、貨物宮城総鉄門前で開催された宮城県集には宮城県支部と仙総支部の仲間約60人がかけつけた。

集会において東北貨物協議会大越議長は、「会社は昨年度バブル期に次ぐ経常利益を確保しながら、期末手当は『年間2・4ヶ月』と過去最低。期末手当は業績の反映であるとしながら社員に還元しないのは大問題」「超低額回答と合せ福



闘いの現状を報告する大越議長

利厚生も一部削られており、社員に鞭だけを振りかざしては、会社を担う若者が居なくなるのではと危惧。現実には若手社員が辞めており、定年退職を待たずに若年退職も続いている。生活設計が立たない、将来展望が真っ暗では当然か」と怒りと悔しさを滲ませた。

また手当獲得の戦術について、「東北の各貨物分会からはストの要請が上っており是非とも指令を要請したい。『ストの効果論等』もあり未だ指令はないが、見せる闘いも重要。組織拡大にも繋がる」と現状打開に向けた闘いを訴えた。

この間、貨物職場では創意工夫した闘いを展開してきた。また地方本部は客貨一体となった緊急抗議集会と合わせ、東北協議会として貨物東北支部に対し、再回答を求める申し入れを実施してきたが及ばなかった。なお、本部は6月24日15時妥結し、本部見解を発した。

東北野球大会

堂々準優勝！ 怪我に負けず意地見せる

5月15・16日、第14回国労東日本本部軟式野球大会が東京で開催された。前回大会での予選敗退の雪辱に燃える仙台地本チームは、見事準優勝の栄冠に輝いた。



一昨年開催された第13回大会では、仙台地本から約20人の参加であったが、今大会は助っ人を含めて12人。「少数精鋭」と言えば格好よいが、実際のところは「大丈夫かな?」というのが本音であった。無論そのことは口には出さない。だがそんな心配をよそに、落合監督は、「いつもろくにアップしないでゲームするからダメなんだよな。体が温まってからはそこそこのいいゲームするんだから...」

その夜開かれた、チームワーク強化のトレーニングでは、殆どの選手は当然饒舌だ。だが全員が翌日の試合に照準を合わせており、決して羽目を外す選手はいない(もう若くないということか...)。

そして迎えた古豪秋田戦。平均年齢は仙台チームよりかなり上の様子。序盤3回表で既に9対0と圧倒ムード。そこに隙が生まれたのか、アクシデントが次々と襲いかかる。



3連投の大倉選手は敢闘賞



初日ホームラン賞を受賞した小松選手

3回裏、先発の阿部(貴)投手が古傷の肩の痛みを訴え、セカンドの堀口選手が急遽登板。しかし冷え切っていた肩にリリーフの荷は重すぎたのか。温存していた大倉選手を急遽投入するも、一時は10対9と迫いつかれ、辛くも逃げ切ったが、その代償は余りにも大きかった。

前日のホームランなど、バットが振れている小松選手はこのゲームでもランニングホームラン確実の当たりを飛ばしたが、二塁ベースを回ったところで突如倒れこんだ。「バン!」と音がしたと言う。肉離れである。



準優勝に笑みがこぼれる

6・7 秋田地本・山形県支部配転者交流会
6・11 第2回選挙管理委員会
第5回婦人部常任委員会
第10回地本執行委員会
6・14 第41回安プロ・第32回各支部業長合同会議

6・15 地本組織対策会議
6・19 貨物会社夏季手当低額回答に抗議する集会
6・20 東日本書記長会議
6・21 地本アスベスト対策会議(学習会)
第3回選挙管理委員会

電気協議会が委員会



挨拶する千葉議長

仙台地方電気協議会は5月17日青葉パークビルにおいて第19回定期委員会を開催した。

あいさつに立った地電協千葉議長は、▼太平洋戦争開戦前を彷彿させる現在の安倍政権の危険な政治手法

▼モノを云わせぬ秘密保護法の取り扱い▼ホワイトカラーエグゼンプションを含む労働法制改悪の危険性等に触れ、また貨物の仲間と

連帯し、憲法に守られた労働争議権（ストライキ）の行使を視野に入れた運動の

展開について問題提起した。

東日本電協高橋議長、仙台地本原子書記長からあいさつを受けた後、大橋事務局長より一年間の闘いの総括、また千葉議長から向こう一年間の運動方針の提起があり質疑に入った。

討論の後、地本歌川業務部長から交渉の経緯や問題点は支社に質していく回答があり、大橋事務長の総括

集約で「職場で闘い続ける」意思統一をし、千葉議長の団結頑張ろうで終了した。

意見・実態

★貨物宮城

▼ここ数年ボウリング交流が未開催。是非組合員の交流の場を▼旅客の仲間は貨物の厳しい実態を把握・理解不足ゆえにストの戦術配置を出来ないのでは▼若手

社員が会社に夜勤時の照明を要求。国労が職場で声を上げ要求する姿を見ての事だと思う。自分たちの運動に自信と確信。

★仙台信通

▼14春闘。3月19日に現場長に要請。新採配属翌日に組合説明を三役で実施。組織拡大に向け取組を継続する▼過日、通信のプレダス障害がありメセ社員が4名出動。団交の仕切りが曖昧になっている。再度学習を。

★福島連合（電力）

▼列車巡視や線閉業務等。東北線と奥羽線の巡視は各担当Gで行っているが、別グループの助勢を言われ、更に線閉手続もしている。

担当エリアと要員を定めたメンテ体制の趣旨と矛盾▼反対線の列車遅れに気付かず列車を止めた。今回は列車がLEDに気づき止まったが、隣接線防護のLED

地本に関わる運動関係では、春闘事務局の委員を担い仙総所支部のまとめ役として、また国労東日本本部主催のマラソン大会では、仙台地本チームの精神的な大黒柱として、駅伝レースの上位入賞に寄与していました。心からお悔やみを申し上げます。

「親分」逝く

仙総所支部執行委員の原田靖さんが、6月25日にご逝去されました。享年56歳でした。

原田さんは6月14日、脳内出血で倒れ救急搬送され、病院で療養中でしたが、意識を取り戻すことなく静かに息を引き取られました。

情に厚く義理堅く、面倒見の良い人柄は、まさに「親分」と呼ぶに相応しく、大先輩から若手後輩まで、分け隔てなく接し、ご家族はもとより、職場や組合関係者の誰からも愛されていた。



在りし日の原田さん

秋田・山形

不当配転者交流会

6月7日、新庄市内において、山形地区配転者激励交流集会在開催された。

この取り組みは、「国鉄分割・民営化」を前後して秋田県内から山形県内に強制配転された仲間達を激励し、また一日も早く地元や希望する勤務地へ戻れるよう、秋田・仙台地方本部の取り組みを確認する場としての見通し（設置場所）に問題はなにか疑問。

★郡山信通

▼今年新採4人が配属。三役で組合説明をした。今後、仕事や付き合いを教えながら関わりを持ち、組織拡大に繋げたい▼仙台支社と水戸支社で相互援助協定を結んでいるが、いざ現場に行ったら協定外の設備。しっかりしてもらいたい▼技セ内で相当の超勤のアンバランスが生じている。組織として何とかならないか。

★若松地区

▼最近タブレットを全員配布されたが使用・活用に不安・疑念がある▼安全（保安体制）問題。電気は実直に守っているが、例えば保線は総合巡視を2名で実施。どうなのか▼規定値外データはなくす方向だが、社工事で取替後、規定値外でも使用開始の実態。歯止めはどうすべきか。

【報告・電気協議会】



30人を越える仲間が集った

に参加者全員が紹介がされ、それぞれの近況報告に対し激励と笑いに包まれて盛会の内に散会した。

※参加された皆さん（敬称略・順不同）

原子清貴 武田昌仙
原田好太郎 田村孝一
菅野 聡 相馬 厚
佐藤芳明 山王丸正寿
土田 聡 東海林茂
青砥 淳 山村 涉
能登井康夫 若野伸一
山口 恒好 斉藤正人
池田直喜 小松田良司
渋谷慶次 杉山浩一
鈴木幸春 佐藤洋介
高橋 誠 後藤重文
高橋英樹 高橋 毅
加賀谷靖 佐々木晴孝
後藤和哉 石山 稔
小林 明宏 日高則男

仲間の異動

出向

6月1日付

山田 芳夫さん
岩沼駅
荒 昭美さん
TSS亘理駅
荒 康宏さん
TSS亘理駅
亘理駅
TSS亘理駅

退職のお知らせ
5月31日付

柳沼 幸夫さん
郡工装置科
(TKK郡山)

桜井 勝彦さん
福島地区(運輸)
(テクノ仙台東)

菊地 尚一さん
郡山駅連(運輸)
(テクノ福島)

小野 一男さん
仙宮運輸区
(テクノ新幹線)

小野寺 芳男さん
仙宮運輸区

菊田 優さん
東工所
(鉄建建設)

中葉 昌利さん
福島地区(運輸)
(退職)

坂本 正幸さん
東工所
(岩手県職員)

○エルダー退職

笠井 久雄さん
米沢連合
(テムズ郡山)

春日部 栄一さん
会津若松地区
(会津鉄道)

上野 正利さん
福島建築
(BT若松)

長い間お疲れ様でした